

学童保育での子どもの安全を考える

つぎは本誌をごらんください

編集部

学童保育では、子どもの安心・安全を守るために主につぎのことを行っています。

- ◎ 来所・帰宅時の安全対策
- ◎ 学童保育の生活のなかでの事故やケガの防止と対策
- ◎ 日常の衛生管理および、おやつ・食に関する衛生とアレルギー対応、食中毒対策

◎ 防災・減災と防犯対策

◎ 感染症の予防と対策

◎ 学校・地域組織・関係機関との連携・協力

「事故やケガを未然に防ぐために、施設・設備を日常的に点検して環境を整備すること」は、指導員の大切な仕事です。そして、子どもの安全を守るためには、一人ひとりの「安全対応力」を把握して、「子ども自身が身につけている力はいかすこと」「教えられる、気づくなどして新たに学習すること」「大人が管理・保護すること」を適切に組みあわせて行う必要があります。

子どもが自分の安全を守るようになるためには、つぎの

力を身につけることが必要です。

◇ 直接の危険に気づける

◇ 危険について対応を判断できる……

例えば、近づかないほうがよい、

回避しながら進める、取り

除ける、挑むなかで対応で

きるなど。

◇ 事故の要因となる隠れてい

る危険（潜在危険）に気づける。

◇ 潜在危険を一つ以上断ち切ることができる……例えば、

「①サンダルを履いて②手に荷物を持ったまま③走る」の

どれかを除けば、転倒する危険を減らすことができる。

◇ 事故が起きても、ケガに結びつかないようにできる……

例えば、ブランコから落ちてても身のこなしがよくてケガ

をしなかったなど。

◇ 被害が生じた際には最小限に抑える……例えば、傷の手

当てや応急処置を知っている、病院へ行く、一一九番通

